

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	塗師 亜紀子
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	兼政 隆志

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	400,646 (R2)	437,371 (R3)	D
施策2	全ての県民が文化に親しむ環境づくり	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	31,681 (R2)	58,948 (R3)	D

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性	
					(年度)	(年度)							
施策1	課題1	兼六園周辺文化施設における一体的な工芸文化の魅力発信	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	400,646 (R2)	437,371 (R3)	1 日本・いしかわの「文化百工」魅力発信事業費	一般県民	32,000	12,680	B	見直し
			美術館入館者数	人	472,500 (R4)	253,363 (R2)	260,199 (R3)	2 美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	40,841	34,197	B	継続
			歴史博物館入館者数	人	165,000 (R4)	97,238 (R2)	122,753 (R3)	3 歴史博物館特別展示費	一般県民	48,156	43,186	B	継続
	課題2	いしかわ百万石文化祭2023(国民文化祭)に向けた本県文化の磨き上げ	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	400,646 (R2)	437,371 (R3)	4 いしかわ百万石文化祭2023開催準備事業費	一般県民	37,000	34,154	B	拡大
								5 三の丸尚蔵館所蔵作品特別展開催準備費	一般県民	1,000	593	B	統合
	課題3	多彩な文化イベントの再開への支援	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭来場者数	人	80,000 (R3)	15,069 (R2)	23,964 (R3)	6 いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭開催事業費	一般県民	58,000	73,000	B	継続
								7 伝統芸能技能向上支援事業費	一般県民	5,000	8,500	B	継続
								8 いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	6,000	6,000	B	継続
								9 「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」普及啓発事業費	一般県民	4,100	4,100	B	継続

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	塗師 亜紀子
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	兼政 隆志

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	400,646 (R2)	437,371 (R3)	D
施策2	全ての県民が文化に親しむ環境づくり	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	31,681 (R2)	58,948 (R3)	D

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価								
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性							
					(年度)	(年度)													
施策2	課題1	いしかわの優れた文化の裾野拡大	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,200 (R3)	1,633 (R2)	5,401 (R3)	10	文化活動支援事業費・若手芸術家活動支援事業費	一般県民	80,000	63,224	A	継続					
								11	子どものための音楽文化推進事業費	小学生	2,300	2,299	B	継続					
								12	子ども芸術鑑賞推進事業費	小中学生	4,582	3,682	B	継続					
								13	県民移動能実施事業費	小中学生	3,000	3,000	B	継続					
								14	障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	一般県民	1,000	82	B	継続					
								15	「いしかわジュニアアートステージ」開催費	高校生以下	7,900	7,900	A	継続					
								16	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	10,000	8,144	B	継続					
								再	「いしかわジュニアアートステージ」開催費	高校生以下	7,900	7,900	A	継続					
								再	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	10,000	8,144	B	継続					
								17	美術館入館者数	人	472,500 (R4)	253,363 (R2)	260,199 (R3)	文化財保存修復工房魅力発信事業費	一般県民	1,424	1,276	B	継続
								18	いしかわミュージックアカデミー参加者数	人	150 (R3)	- (R2)	- (R3)	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	一般県民	20,140	10,000	-	継続
								19	音楽堂入場者数	人	258,000 (R4)	50,282 (R2)	114,649 (R3)	音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,000	15,000	B	継続
								20	地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,000	10,000	B	継続					
再	子どものための音楽文化推進事業費	小学生	2,300	2,299	B	継続													

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 日本・いしかわの「文化百工」魅力発信事業費	事業開始年度 H17	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令・計画等 いしかわ文化振興条例		成 職・氏名 主事 市村 栄里加
			者 電話番号 076 - 225 - 1371 内線 3856

事業の背景・目的
 コロナ禍においても本県文化の魅力を国内外に広く発信するとともに、令和5年秋の国民文化祭に向けた気運醸成を図るため、国・県・金沢市が連携して、「歴史文化と美術工芸」、「回遊性の向上」、「建築文化」、「夜の魅力」をキーワードに、本県ならではの多彩な文化イベントを展開する。

事業の概要

(1) 歴史文化と美術工芸の魅力発信
 県立美術館や歴史博物館等において大規模な展覧会を開催(別事業で実施)
 ・県立美術館:「加賀百万石 文武の誉れ」展(7/10～8/8)
 「うるはしきもの めでたきわざ」展(11/7～12/5)※国際北陸工芸サミット
 ・歴史博物館:「大加州刀展」(7/22～9/12)
 「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」展(10/9～11/23)
 ・国立工芸館:「開館記念展Ⅲ -近代工芸と茶の湯のうつわ-」(4/29～7/4) ほか

(2) 施設間の連携と回遊性の向上
 国立工芸館を含め、文化の森各施設の周遊を促すイベントを開催
 ・工芸館、美術館、歴博の特別展を巡る解説ツアーの開催
 ・県内外の伝統工芸制作体験ワークショップの定期開催
 ・ミュージアムコンサートの定期開催 ほか

(3) 建築文化の魅力発信
 国立工芸館の開館を機に、旧県庁舎や赤レンガミュージアムなど兼六園周辺文化の森に集積する近代建築の魅力を発信
 ・専門家の解説付きで近代建築探訪ツアーを開催
 ・各建築物の見どころやマップ等を掲載したパンフレットの作成
 ・スタンプラリーの実施 ほか

(4) 夜の魅力の創出
 金沢城・兼六園四季物語と連携し、国立工芸館や赤レンガミュージアムをライトアップするなど、夜の賑わいを創出
 ・国立工芸館を中心に本多の森公園でデジタル掛け軸を実施
 ・本多の森公園一帯を彩るイルミネーションの実施

(5) その他
 能などの伝統芸能等をテーマにした多彩なイベントを開催

直近の見直し状況
 R3:国立工芸館の開館を機に、「工芸」をテーマにした展覧会や多彩なイベントを、国際北陸工芸サミット期間に集中的に開催することとし、「『加賀百万石文化めぐり』開催事業」から事業名称を変更。

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	兼六園周辺文化施設における一体的な工芸文化の魅力発信					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	913,000	862,986	976,144	823,786	400,646	437,371
事業費						
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	19,000	24,000	36,000	41,000	32,000
	決算	19,000	23,858	35,823	15,692	12,680
一般	予算	9,500	12,000	18,000	20,500	16,000
	決算	9,500	11,929	19,418	7,846	6,340
財源	決算	9,500	11,929	19,418	7,846	6,340
	事業費累計	142,576	166,434	202,257	217,949	230,629
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一部のイベントを中止・規模縮小したものの、工芸文化や建築文化等に親しむ数多くの機会を提供し、兼六園周辺文化の森エリアの回遊性向上に貢献した。特に、国立工芸館や赤レンガミュージアム等の近代建築物を紹介する見学会を初めて開催するなど、新たな魅力の増進に取り組んだことで、新たな客層の確保に繋がった。 <レトロ建築見学会開催回数> 25回(R3.10月以降の毎週日曜日)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し	令和3年5月に文化観光推進法に基づき「兼六園周辺文化の森地域計画」の認定を受けたところであり、今後、国・県・金沢市の文化施設がより一層連携を強化して、工芸文化や建築文化に触れる機会を充実させるとともに、特に、令和5年度は県立能楽堂が開館50周年を迎える節目であるため、能楽文化の魅力を変えて発信することで、エリア一帯での誘客の促進と賑わい創出を図る。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 美術館展覧会費(企画展示費)	事業開始年度 S58	事業終了予定年度	作 組 織 県立美術館	成 職・氏名 主幹 一木 勉
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例	者 電話番号 076 - 231 - 7580	内線 6510

1 事業の背景・目的
 美術に対する理解を深めるため、特定のテーマに基づく作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。
 また、こうした場を提供しつつ、兼六園周辺文化の森に立地する特長を生かし、憩いの空間として県内外のお客様に広く親しまれる美術館となることを事業の目的とする。

2 事業の概要

(1) かお・すがた・こころ ～肖像と近代～

① 会 期 : 令和3年(2021年)4月18日～5月23日 (会期 36日間)

② 内 容 : 石川の近代美術は、終戦直後の現代美術展の開催、金沢美大の開校もあって、他県には類をみない発展を遂げた。その先頭に立ってリードした宮本三郎・高光一也のもと石川には肖像を得意とする画家・彫刻家が数多く生まれた。肖像を通して石川の近代美術を探る。

(2) 加賀百万石 文武の誉れ ～歴史と承継～

① 会 期 : 令和3年(2021年)7月10日～8月8日 (会期 30日間)

② 内 容 : 加賀前田家の歴代藩主は、武人であるとともに文化にも深い関心を寄せ、金沢では加賀文化の確立とともに美術工芸の花が開いた。現在当地に伝わるもののほか、尊経閣文庫や文化庁などかつて加賀の地を彩った珠玉の文化財を公開する。

(3) 壺中日月長(こちゅうじつげつながし) 大樋陶冶斎のまなざし

① 会 期 : 令和3年(2021年)9月18日～10月17日 (会期 30日間)

② 内 容 : 現代陶芸界を代表する大樋陶冶斎の回顧展。江戸時代から続く大樋焼の茶陶作りを受け継ぐとともに、日展を中心に意欲的な展覧会活動を行い、精力的な創作活動を続ける大樋氏の表現世界を紹介する。

(4) うるはしきもの めでたきわざ ～北陸三県の芸術院会員・人間国宝～

① 会 期 : 令和3年(2021年)11月7日～12月5日 (会期 29日間)

② 内 容 : 北陸で開催した「国際北陸工芸サミット」の締めくりに北陸工芸の魅力を紹介する。その集大成として工芸を基軸に、本物の日本文化が息づく北陸を一体感をもって世界に発信する。

施策・課題の状況					
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造			評価	D
課題	兼六園周辺文化施設における一体的な工芸文化の魅力発信				
指標	美術館入館者数			単位	人
目標値	現状値				
令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
472,500	433,334	529,858	403,763	253,363	260,199

事業費					
(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費 予算	20,763	20,763	20,763	49,589	40,841
事業費 決算	19,749	20,251	14,475	17,861	34,197
一般 予算	8,847	8,847	8,847	8,847	7,962
財源 決算	9,286	7,868	8,349	7,962	21,734
事業費累計	571,875	592,126	606,601	624,462	658,659

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度から延期されていた展覧会(「かお・すがた・こころ」展、「加賀百万石 文武の誉れ」展、「うるはしきもの めでたきわざ」展)については、当初の計画より多くの本県ゆかりの名品を借用し、展示内容を充実させて開催することができ、来館者アンケートでは、95%の方から満足したという評価を得ることができた。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により「かお・すがた・こころ」展、「加賀百万石 文武の誉れ」展は、会期を短縮して実施。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 引き続き、新型コロナウイルスの感染対策を徹底しつつ、来館者アンケートなどの要望にきめ細やかに対応するとともに、美術館に何度も足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することにより、コロナ禍においても入館者数の増加、来館者満足度のより一層の向上を目指す。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 歴史博物館特別展示費	事業開始年度 S62	事業終了予定年度	作 組 織 歴史博物館
	根拠法令 ・計画等 いしかわ文化振興条例		成 職・氏名 企画管理専門員 藤永 太郎
			者 電話番号 076 - 262 - 3236 内線 6511

事業の背景・目的
 独自のテーマにスポットをあて、考古・歴史・民俗等の貴重な資料を基に特別企画による展示を行い、県民等が歴史に親しみ、さらに認識を深める一助となることを目的としている。

事業の概要
(1) 春季特別展
 テーマ: 「小原古邨 -海をこえた花鳥の世界-」
 時 期: 令和3年4月24日(土)～6月27日(日) 65日間
 主 旨: 小原古邨(1877-1945)は、金沢に生まれ、日本画家・鈴木華邨(1860-1919)に学び、アーネスト・フェノロサ(1853-1908)の指導も受けたと伝えられている。明治後期から大正・昭和にかけて活躍した古邨は、身近な自然を見つめ、鳥や昆虫などを草花とともにとらえ、生命力あふれる調和のとれた作品を生み出した。明治の終わりから現代にいたるまで、古邨の作品は主に海外で高く評価されてきた。金沢の美意識と職人の気質に育まれた古邨、いまだ知られざる創作の秘密と魅力に迫る、小原古邨はじめての故郷・金沢での回顧展。

(2) 夏季特別展
 テーマ: 「大加州刀展」
 時 期: 令和3年7月22日(木・祝)～9月12日(日) 53日間
 主 旨: 日本刀は、日本民族特有の精神文化が生み出した世界に比類のない芸術の精華であり、我が国の貴重な文化遺産として今日高く評価されている。本展では、このように加賀の地で活躍した刀工にスポットをあて、いわゆる加州刀を系譜別、年代別に俯瞰するもので、その魅力の神髄に触れることのできる恰好の機会である。併せて、腹巻と加賀具足・兜・拵の逸品も公開する。

(3) 秋季特別展
 テーマ: 「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」
 時 期: 令和3年10月9日(土)～11月23日(火・祝) 46日間
 主 旨: 尾張徳川家は、江戸幕府を開いた徳川家康の九男義直(1600-1650)に始まる御三家筆頭の大名家で、名古屋城を居城とし、江戸時代を通じて徳川将軍家に次ぐ家格を誇りました。本展では、徳川美術館に伝来した家康の遺産「駿府御分物」や歴代当主、子女の所用品に加え、同館のコレクションの中から選び抜いた名品を紹介する。とりわけ国宝「源氏物語絵巻」は徳川美術館以外では修復後初めての特別公開であり、三代将軍家光の娘千代姫の調度である国宝「初音の調度」(金銀の蒔絵が施された大名道具と呼ぶにふさわしい華麗な逸品)や前田利常から五代将軍綱吉に献上された国宝の太刀「長光」、関ヶ原合戦直前の徳川家と前田家との関係をリアルに伝える古文書「前田利長の書状」など、加賀前田家ゆかりの貴重な品々も一堂に紹介する大展覧会。

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	兼六園周辺文化施設における一体的な工芸文化の魅力発信					
	指標	歴史博物館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	165,000	155,586	174,753	151,807	97,238	122,753

事業費						
	(単位: 千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	35,365	31,352	37,136	39,263	48,156
	決算	35,956	28,424	36,200	18,404	43,186
一般	予算	19,081	12,506	12,115	12,115	6,993
財源	決算	19,903	21,411	21,387	12,915	19,774
事業費累計		294,514	322,938	359,138	377,542	420,728

評価	
項目	評価 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">B</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、「大加州刀展」が会期中で中止となったものの、刀剣や大名文化等をテーマに、数多くの国宝や重要文化財等が一堂に会した特別展を開催したことで、来館者アンケートでは、99%の方が満足したと回答するなど、高い評価を得ることができた。</p> <p>※「大加州刀展」はR4年度に延期</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">継 続</p> <p>新型コロナウイルスの感染対策を徹底し、R3年度から延期となった展覧会の開催を目指すほか、今後も本県の歴史や文化の魅力を様々な視点から発信するとともに、多くの来館者から満足が得られるよう事業実施の工夫に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の興味を引くようなテーマの設定 ・SNS等の活用による広報 ・来館者アンケートによる利用者ニーズの把握と特別展への反映

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ百万石文化祭2023開催準備事業費	事業開始年度	R2	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 浅井 圭一郎		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1372 内線 3847

事業の背景・目的

国民文化祭は、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典であり、各種の文化活動を全国規模で発表、共演、交流する場を提供するとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用し、一層の芸術文化を振興に寄与するものである。

石川県では、平成4年秋に「第7回国民文化祭石川大会」を開催しており、令和5年秋に、2回目となる国民文化祭を開催し、県内各地で多彩な文化イベントを展開することにより、全世界に向けて、石川の文化の魅力を余すところなく発信し、大会の盛り上がりを令和6年春の新幹線県内全線開業につなげ、「第二の開業効果」を県下全域に波及させていくこととする。

事業の概要

令和5年度の国民文化祭の本県開催に向け、実施計画の策定など準備を本格化

- 1 実施計画の策定
 実行委員会の設置、実施計画の策定、先催県への視察 等
- 2 気運醸成の取組
 2年前イベントの開催、広報活動の展開

<開催までのスケジュール(想定)>

R1 (2019年) 4年前	R2 (2020年) 3年前	R3 (2021年) 2年前	R4 (2022年) 1年前	R5 (2023年) 開催年
国民文化祭 開催内定	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針に関する有識者会議設置 →基本構想策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・県実行委員会設置 ・国実行委員会で基本構想承認 ・県実行委員会で実施計画策定 ・プレイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・国実行委員会で実施計画承認 ・プレイベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇ヶ月前、〇日前イベント開催 <li style="background-color: orange; padding: 2px;">国民文化祭開催

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造	評価	D			
課題	いしかわ百万石文化祭2023(国民文化祭)に向けた本県文化の磨き上げ					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	913,000	862,986	976,144	823,786	400,646	437,371

事業費						
(単位:千円)		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算				8,000	37,000
	決算				1,234	34,155
一般財源	予算				8,000	37,000
	決算				1,234	34,155
事業費累計			0	0	1,234	35,389

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県内の関係団体・機関で構成する実行委員会を設置し、大会の具体のイベントを盛り込んだ実施計画の策定に取り組んだほか、大会公式ポスター等の作成・配布やプレイベントの開催などの広報・PR活動を行い、大会に向けた気運醸成を図るとともに、本県文化の磨き上げにも寄与した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	令和4年度は、新設される「いしかわ百万石文化祭推進室」において、令和5年秋の大会本番に向け、個別の事業計画を作成し、事業の具体化に向けた取り組みを加速していくとともに、プレイベントの開催や広報ボランティアの募集などにより、さらなる気運の醸成を図る。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	三の丸尚蔵館所蔵作品特別展開催準備費	事業開始年度	R3	事業終了予定年度		作組織	文化振興課	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成職・氏名	主事 市村 榮里加	
							者電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3856

事業の背景・目的
 令和5年度の国民文化祭にあわせて、国内唯一の工芸専門の国立美術館である「国立工芸館」と、古美術品から近・現代まで、幅広く本県ゆかりの作品を収蔵・展示する「石川県立美術館」が一体となって、「一つの展覧会」として特別展を開催する。

事業の概要
 2館共同での特別展の開催に向け、内容の検討に着手する。

(1) 宮内庁、文化庁との調整
 (2) 他県で開催する特別展についての情報収集等

施策・課題の状況							
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D	
課題	いしかわ百万石文化祭2023(国民文化祭)に向けた本県文化の磨き上げ						
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	913,000	862,986	976,144	823,786	400,646	437,371	
事業費							
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業費	予算					1,000	
	決算					593	
一般財源	予算					1,000	
	決算					593	
事業費累計			0	0	0	593	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	宮内庁や文化庁と協議を重ねたほか、先催県(宮崎県、和歌山県等)の特別展を視察し、会期や展示内容等の具体の検討に着手するなど、特別展開催に向けた準備を進め、いしかわ百万石文化祭2023に向けた本県文化の磨き上げに寄与した。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	統合	当特別展は、令和5年秋の「いしかわ百万石文化祭2023」におけるメインイベントの1つであり、今後は新設される「いしかわ百万石文化祭推進室」の「いしかわ百万石文化祭2023開催準備事業費」において、一体的に準備を進める。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭開催費	事業開始年度	H29	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作組織	文化振興課			
成職・氏名	主事 松本 季実			
者電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3839			

事業の背景・目的
一流の演奏を鑑賞する機会を提供するとともに、地域に密着した、本県ならではの企画を盛り込んだ音楽祭を開催し、石川の音楽文化を発信するとともに、音楽を通じた地域の賑わい創出にも寄与することを目的とする。

- 事業の概要**
- 1 開催時期: 令和3年4月28日(水)～令和3年5月5日(水・祝) 8日間
 - 2 会場: 県立音楽堂、北國新聞赤羽ホール、加賀・能登地区の文化施設ほか
 - 3 内容: (1)世界的な作曲家などをテーマにした本格的なクラシックコンサート
オーケストラ・アンサンブル金沢をはじめ、国内の一流オーケストラや世界的な指揮者などによる南欧にまつわる名曲演奏など

(2)伝統芸能「邦楽」の新たな魅力の発見
石川が誇る邦楽の単独公演、邦楽とクラシックのコラボレーションなど

(3)県民が楽しみながら気軽に親しめるクラシックコンサート
作曲家による即興演奏&トークバトルや、ダンスや映像などとのコラボレーション公演

(4)石川が育んだ若手音楽家たちの共演
いしかわミュージックアカデミー出身者や北陸新人登竜門コンサート出身者などの国内外で活躍する若手音楽家によるコンサートなど

(5)地元演奏家や子どもたちとともに、みんなで楽しむ参加型プログラム
オーディション合格者によるピアノ公演、公募型合唱コンサート、市民オーケストラ等の合同演奏など

4 来場者目標: 80,000人

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	多彩な文化イベントの再開への支援					
指標	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭来場者数		単位	人		
目標値	現状値					
令和3年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
80,000	111,840	112,960	113,234	15,069	23,964	

事業費						
(単位:千円)		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000
	決算	77,200	69,850	96,705	68,000	73,000
一般	予算	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
財源	決算	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
事業費累計		315,926	385,776	482,481	550,481	623,481

評価	
項目	評価
左記の評価の理由	
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、公演数を減らすなどの制限はあったものの、県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、本県の音楽文化の振興に寄与した。 <公演数> R3:112公演(R2[秋の陣特別公演]:42公演)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、かつ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	伝統芸能技能向上支援事業費	事業開始年度	H25	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作組	織	文化振興課
成職	氏名	主事 安村 俊亮
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3854

事業の背景・目的
 藩政期から受け継がれてきた本県が誇る財産であり、魅力でもある金沢芸妓による質の高い伝統芸能について、芸の披露の場を創出することにより、県民や観光客が気軽に鑑賞する機会の充実を図るとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図る。

事業の概要

- 芸の発表の場の創出
 - (1) 事業名
金沢芸妓の舞
 - (2) 事業内容
県民や観光客に、金沢芸妓による芸(踊り、太鼓、お座敷遊びなど)を披露する。
 - ①会場
県立音楽堂邦楽ホール和室、県立美術館ホール(R2～)
 - ②実施期間等
令和3年10月～令和4年3月の実施期間内に年33回開催(3茶屋街×11回)
 - ③開催時間
午後2時～3時(1時間程度)
 - ④出演
ひがし、にし、主計町の各茶屋街の芸妓
 - ⑤対象者
県民や県外からの観光客(各回定員 音楽堂:50名程度、美術館:200名)

※県立音楽堂邦楽ホール和室での開催に合わせて、邦楽ホールバックステージツアーを10回(月1～2回)実施(「金沢芸妓の舞」終了後、30分程度)

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	多彩な文化イベントの再開への支援					
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数		単位	人	
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	112,000	139,645	111,603	121,012	31,681	58,948
※いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	3,800	4,000	4,000	4,600	5,000
	決算	3,800	4,000	3,750	4,200	8,500
一般財源	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		17,100	21,100	24,850	29,050	37,550
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「金沢芸妓の舞」は、県民や観光客に、普段体験できない茶屋文化に触れる貴重な機会を提供しており、また、芸の披露の場を確保することにより、金沢芸妓の技能向上にも貢献している。 昨年度は公演回数を大幅に増やしたことで、より多くの県民や観光客が金沢芸妓の魅力に触れることができた。 <公演回数・入場者数> R3:33回/1,499人(R2:15回/899人)			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	多くの県民や観光客に、茶屋文化に気軽に親しんでもらうとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図るため、引き続き、支援に取り組む。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主事 松田 美穂
					者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853

事業の背景・目的

定期的な能楽を上演し、鑑賞及び体験の機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

- 事業の概要**
- 内 容
- 1 能楽鑑賞
「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
 - ①「夏の観能の夕べ」
全9回 令和3年7月～8月(毎週土曜日)
(特別公演1回、一般公演8回)
 - ②「冬の観能の夕べ」
全5回 令和4年1月～3月の期間中(土曜日)
 - 2 能楽体験
「観能の夕べ」上演前に演目に関する体験を実施
定員:20名/回(要事前予約、能楽鑑賞者の中で申込順)

会 場 石川県立能楽堂

主 催 いしかわの伝統文化活性化実行委員会

対 象 一般

- 入場料
- ①「夏の観能の夕べ」
特別公演 3,000円/回
一般公演 1,000円/回
 - ②「冬の観能の夕べ」
前売り 1,000円/回
当日 1,200円/回
 - ③ 能楽体験
無料

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	多彩な文化イベントの再開への支援					
	指標	能楽堂入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	54,000	53,522	49,363	48,445	20,908	32,384

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業

事業費							
		(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	
	決算	8,050	5,325	3,316	5,596	6,000	
一般	予算	0	0	0	0	0	
	決算	0	0	0	0	0	
財源		0	0	0	0	0	
事業費累計		87,875	93,200	96,516	102,112	108,112	

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格により定期的に鑑賞する機会を県民に提供したほか、公演回数を確保することにより、能楽師の技術向上にも貢献した。 <公演回数・入場者数> R3:14回/2,001人(R2:12回/1,596人) ※コロナにより、能楽体験は中止
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継 続	今後も「観能の夕べ」を継続することにより、さらなる能楽愛好者の裾野拡大を図る。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」普及啓発事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主事 滝沢 香織
						者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3845

事業の背景・目的
 県民の文化意識の向上を図るため、「いしかわ文化の日」及び「いしかわ文化推進期間」の期間中、各種イベントの集中実施及び各施設・市町と連携した一体的なPRにより、より多くの県民が文化に親しむことのできる機会を創出し、文化施設のさらなる利用促進と県民の文化意識の向上を図る。

事業内容

(1) 「いしかわ文化の日」普及事業 (10月17日(日))

ア いしかわ文化の日記念イベントの開催
 ・会 場： 輪島市文化会館(輪島市)
 ・内 容： ①オープニング公演
 ②記念講演
 ③親子文化体験

イ 文化施設の県民入場無料の普及・啓発
 ・県内文化施設の当日県民入場無料化
 ・啓発チラシの作成、配布

(2) 「いしかわ文化推進期間」普及事業 (10月17日(日)～11月3日(水・祝))

ア スタンプラリーの実施
 ・県内文化施設来場者を対象としたスタンプラリーを実施
 ・複数の文化施設来場者に景品を交付

イ 県内文化施設ガイドの作成
 ・県内の文化施設の常設展や期間中に実施される企画展についてのガイド作成、配布
 ・文化施設、観光施設、商業施設等に設置

施策・課題の状況						
施策	本県文化の次世代への継承と新たな文化の創造				評価	D
課題	多彩な文化イベントの再開への支援					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	913,000	862,986	976,144	823,786	400,646	437,371
事業費						
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	6,500	6,500	5,200	5,200	4,100
	決算	6,500	6,500	5,200	5,200	4,100
一般	予算	6,500	6,500	5,200	5,200	4,100
	決算	6,500	6,500	5,200	5,200	4,100
財源	決算	6,500	6,500	5,200	5,200	4,100
事業費累計		18,000	24,500	29,700	34,900	39,000
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「いしかわ文化の日」には119の文化施設を無料化することで、3万人近くの県民の施設利用があったほか、記念イベントの参加者アンケートでも、「地域(輪島)にちなんだ”祭り”をテーマにした公演ががとともよかった。」といった、好意的な意見が多く、県民の文化意識の向上を図ることができた。 <いしかわ文化の日の無料化対象施設の入館者数> R3:28,477人(R2:43,314人) ※コロナにより、スタンプラリー・協賛事業は中止				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	「いしかわ文化の日」記念イベントについては、本県ゆかりの文化人を招いた講演や地元で活躍する文化団体等の公演を開催するなど、県民の文化意識の向上に資するよう趣向を凝らしたイベントを開催する。 また、「いしかわ文化推進期間」においては、協賛事業のイベントガイドへの掲載や、文化施設のスタンプラリーを再開し、県民の文化に親しむ機会を増やすことで、県内全域の文化活動を一層盛り上げていけるよう取り組む。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化活動支援事業費・若手芸術家活動支援事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例				成 職・氏名	主事 細川 有香
						者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3844	

事業の背景・目的
 県内の文化団体が新たに実施する文化活動に対して助成金を交付することにより、文化の担い手である県民の自主的・主体的な文化活動を支援し、本県の優れた文化の更なる発展と裾野の拡大を図る。

事業の概要

事業名	文化活動支援事業	
	① 文化創造普及事業	② 地域文化活性化事業
対象事業	県全域を対象として文化活動を行う文化団体が実施する文化活動事業(新規性のあるものに限る)	市町において文化活動を行う文化団体が実施する文化活動事業(新規性のあるものに限る)
助成対象期間	最大3年間(初年度に全体事業を認定)	
	初年度に助成金を一括交付	助成金は毎年度交付
助 成 率	最大で全体事業費の1/2 <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は2/3 ※助成額は、次の①②のいずれか低い額 ① 助成対象経費 × 1/2 (又は2/3) ② 事業費 - 入場料収入等</small>	
		団体自己負担の1/2以上を地元市町が補助
助成限度額	最大 300万円(3年間) <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は400万円</small>	最大 150万円(3年間) <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は200万円</small>

事業名	若手芸術家活動支援事業	
対象事業	県全域を対象として活動を行う文化団体に所属する概ね40歳未満の若手芸術家(個人又はグループ)が行う個展やコンサートなど <small>※所属する文化団体から推薦のある者に限る</small>	
助成対象期間	1年間	
助 成 率	最大で全体事業費の2/3 <small>※助成額は、次の①②のいずれか低い額 ① 助成対象経費 × 2/3 ② 事業費 - 入場料収入等</small>	
助成限度額	最大20万円	

これまでの見直し状況

平成30年度募集より、「子ども対象事業」及び「指導者育成事業」の支援を拡充するとともに、若手芸術家への支援制度を新設

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和3年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	13,200	12,838	13,902	11,797	1,633	5,401

※いしかわ県民文化振興基金事業

事業費						
(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業費 予算	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
事業費 決算	51,403	71,024	70,147	68,492	63,224	63,224
一般 予算	0	0	0	0	0	0
財源 決算	0	0	0	0	0	0
事業費累計	176,673	247,697	317,844	386,336	449,560	

評価	
項目	評価
事業の有効性	左記の評価の理由
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 文化活動・若手芸術家活動の広範な分野から創意溢れる様々な取組の応募があり、R3年度は39件(R2年度:55件)を事業認定・助成した。 助成事業には、人形劇や狂言など、昨年までの認定にはない新たな分野の取組が含まれ、多様な分野での活用が広がっており、文化団体の自主的・主体的な活動を促進し、本県文化の更なる発展と裾野の拡大に寄与している。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 引き続き、文化団体や個人の自主的・主体的な活動の支援を行い、本県文化の更なる発展と裾野拡大を図る。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	子どものための音楽文化推進事業費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主事 松本 季実			
	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3839			

事業の背景・目的
「いしかわ文化振興条例」の基本理念に基づき、本県の文化の裾野の拡大とさらなる高みを目指すため、洋楽(クラシック音楽)・邦楽を嗜む新たな県民の掘り起こしを図る。

- 事業の概要**
- 1 洋楽・邦楽リーフレットの作成・配布
 - (1) 内容

普段、邦楽等に触れる機会の少ない子ども達を対象とした洋楽・邦楽の基礎知識等をまとめたリーフレットを作成し、配布する。

 - ①洋楽
 - ・クラシック音楽とは？(歴史、楽器、編成等の基礎知識)
 - ・代表的な作曲家とその代表曲
 - ・コンサートに行くには？(服装、マナー等)
 - ・音楽堂、オーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)紹介 など
 - ②邦楽
 - ・邦楽の歴史、楽器について
 - ・音楽堂邦楽ホール紹介 など
 - (3) 作成部数

各16,000部
 - (4) 配布先

県内小学校(6年生)、各市町、各種イベント、音楽教室等
 - 2 はじめてのコンサート開催((公財)石川県音楽文化振興事業団への補助金)
 - (1) 目的

リーフレット等で興味を持った人に、実際にコンサートに足を運んでもらう。
 - (2) 内容

既存の音楽堂主催のコンサートのうち1公演を、初心者向けのコンサートとする。
 - (3) 特徴
 - ①リーフレット等を活用した丁寧なMC解説(楽器紹介、鑑賞マナーなど)
 - ②楽器体験コーナーの設置
 - (4) 開催回数

2回
 - (5) 出演

MC(司会)、OEK、石川県ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブルほか

施策・課題の状況					
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり	評価	D		
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大				
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	単位	人		
目標値	現状値				
令和3年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
13,200	12,838	13,902	11,797	1,633	5,401
指標	音楽堂入場者数	単位	人		
目標値	現状値				
令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
258,000	321,184	255,959	260,592	50,282	114,649

※いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
(単位:千円)		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	2,500	2,300	2,300	2,300	2,300
	決算	2,495	2,497	1,709	2,299	2,299
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
財源		0	0	0	0	0
事業費累計		6,562	9,059	10,768	13,067	15,366

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	普段邦楽やクラシック音楽に触れる機会の少ない子ども達を中心に、リーフレットの作成・配布による、邦楽やクラシック音楽の基礎知識等に触れる機会を創出し、音楽文化の普及啓発を図った。 <「はじめてのコンサート」入場者数> R3:391人(R2:418人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	引き続き、リーフレットを活用した啓発やコンサート内容の充実により子どもたちが音楽に触れる機会を提供し、音楽を嗜む県民の裾野拡大に取り組んでいく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	子ども芸術鑑賞推進事業費	
	事業開始年度	S57
	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	いしかわ文化振興条例

作成者	組織	文化振興課	
	職・氏名	主事 安村 俊亮	
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3854	

事業の背景・目的

県内の小中学生を対象に優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し、芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

事業の概要

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室
県内で7公演を実施 (公財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託
(輪島市、羽咋市、かほく市、白山市、野々市市、内灘町、志賀町)
- 2 スクールシアター(児童演劇公演)
県内で8公演を実施 (公社)日本児童青少年演劇協会に委託
(珠洲市、かほく市、白山市、野々市市、川北町、内灘町、穴水町、能登町)
- 3 古典芸能鑑賞教室
「越後獅子」班 (藤間勘菊社中、田中杉英勢社中ほか)
「春の海」班 (釣谷雅楽房社中、前川晴笙中、藤間勘寿々社中)
この2班で県内3公演を実施(小松市、輪島市)

施策・課題の状況							
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり					評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和3年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	13,200	12,838	13,902	11,797	1,633	5,401	
※H27～いしかわ県民文化振興基金事業							
事業費							
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業費	予算	4,231	4,231	4,012	5,232	4,582	
	決算	4,231	4,231	2,812	0	3,682	
一般	予算	0	0	0	0	0	
財源	決算	0	0	0	0	0	
事業費累計		305,969	310,200	313,012	313,012	316,694	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		B	県内の子どもたちにオーケストラや演劇など、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、豊かな感性と創造性をはぐくむことに寄与している。 鑑賞教室等を体験した学校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。 <鑑賞者数> R3:3,358人(R2:コロナにより中止)				
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本物の芸術に触れる機会の少ない児童・生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。 また、開催希望数が増加するよう、市町担当者に当該事業の説明会やPRを行うなど、引き続き市町に対し積極的な働きかけを行う。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 県民移動能実施事業費	事業開始年度 H2	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等 いしかわ文化振興条例		成 職・氏名 主事 松田 美穂 者 電話番号 076 - 225 - 1371 内線 3853

事業の背景・目的
鑑賞機会が少ない地域に能楽師が出向き、児童・生徒等に生の舞台芸術にふれる機会を提供することにより、能楽愛好者の増加を図る。

事業の概要
県内市町にて2公演(1公演/1市町)下記事業を実施する。

「内 容」
狂言1番、能1番
開催市町の児童・生徒を対象としたワークショップ

「公演日、会場」
① 10月26日(火) 加賀市立三谷小学校
② 11月29日(月) 輪島市文化会館

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
目標値	現状値					
	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	13,200	12,838	13,902	11,797	1,633	5,401

※～H26石川県文化振興基金事業
※H27～いしかわ県民文化振興基金事業

事業費					
(単位:千円)					
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
一般	0	0	0	0	0
財源	0	0	0	0	0
事業費累計	84,000	87,000	90,000	91,500	94,500

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p>「県民移動能」は、能楽の鑑賞機会が少ない地域に能楽師が出向き、児童・生徒等に生の舞台芸術にふれる機会や、能楽の体験の機会を提供しており、児童・生徒等が本県の豊かな古典芸能の理解を深めることに貢献している。</p> <p style="text-align: center;">＜公演回数・鑑賞者数＞ R3:2回/221人(R2:1回/86人)</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">継 続</p> <p>本県を代表する古典芸能である能楽に触れる機会の少ない児童・生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっている。実施した市町からは好意的な意見が多いことから、各市町の要望に応じて、内容の充実を図りながら、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供する。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	事業開始年度	H9	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
	根拠法令	いしかわ文化振興条例	成 職・氏名	主事 東 有紀	者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3856
	・計画等	石川県バリアフリー社会の推進に関する条例(H9.3)				

事業の背景・目的
 障害のある方でも楽しめる文化展の開催を通じて、より幅広い層の県民に石川の文化にふれる機会を提供することで、障害の有無に関わらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会を実現する。

事業の概要

- 1 事業名 ふれてみるいしかわの文化展
- 2 会 場 石川県立歴史博物館
- 3 期 間 令和3年12月3日(金)～9日(木) 7日間
- 4 対 象 主に障害者の方(視覚障害者や車椅子使用者等)、一般県民
- 5 内 容 ふれてみる彫刻展、音楽とおはなしの会・ミニコンサート、クイズコーナー、彫刻ワークショップ

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和3年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	13,200	12,838	13,902	11,797	1,633	5,401

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業

事業費						
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	決算	976	998	978	84	82
一般	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		29,022	30,020	30,998	31,082	31,164

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由 文化展は、著名な彫刻家の作品をじかに触れる彫刻展であり、障害のある方も含め、幅広い層の県民が文化芸術に親しむ機会となっており、文化事業のソフト面でのバリアフリー化の推進に資するものである。 B <参加者数> R3:42人(R2:37人) <うち視覚障害者数> R3:13人(R2:20人) ※コロナにより、R3年度も県立盲学校への出前形式で彫刻展を開催
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 文化展は、障害のある方にとって、芸術文化に触れることができる貴重な場となっていることから、障害者団体の要望等を踏まえ、内容等の充実を図りながら、引き続き開催していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわジュニアアートステージ開催費	事業開始年度	H30	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作組	織	文化振興課			
成職	氏名	主事 滝沢 香織			
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3845			

事業の背景・目的
 本県文化の次代の担い手を育成するため、トップレベルの文化活動を実践している児童・生徒による「和」と「洋」の創意あふれるステージ発表や作品展示などを通して、多くの児童・生徒が刺激を受け合う場を創出し、今後の文化活動の更なる意欲の向上を図る。

事業内容

(1) 会場 ①ステージ公演 県立音楽堂 邦楽ホール
 ②作品展覧会 しいのき迎賓館 しいのきプラザ

(2) 開催時期 ①ステージ公演 令和3年12月12日(日)
 ②作品展覧会 令和3年12月6日(月)～11日(土)

(3) 出演・出展内容
 ①ステージ公演
 ・分野 「和」箏曲、民謡、三味線、和太鼓など
 「洋」洋舞(ダンス、バレエ)、ピアノ、合唱、吹奏楽、バイオリンなど
 ・公演 10～15分/団体(7～8団体程度)
 ・講評等 著名な舞台関係者による講評
 ・交流 出演者同士の「和」と「洋」のコラボステージ(1～2組)
 ②作品展覧会
 ・作品展示 全国高等学校総合文化祭出品作品等
 ・講評 各分野の専門家らによる講評
 ・交流 高校生による生け花や書道のステージパフォーマンスや、生け花、書道、似顔絵の体験

(4) 出演基準
 全国的なコンクールや大会で入賞した団体・個人 (対象：小学生～高校生)
 (各部門の協会・連盟等からの推薦を要する)

(5) 幼児向け文化体験
 ・会場：音楽堂の練習室・控室等
 ・体験分野：ピアノ、和太鼓、ダンス、書道、絵画など
 ※「アートステージ」本番の鑑賞にもつなげ、文化活動をはじめのきっかけづくりとする。

(6) 加賀地区でのミニイベント(アートステージプレイイベントとして実施)
 ・開催時期：令和3年11月23日(火・祝)
 ・会場：松任文化会館 ピーノ
 ・内容：作品展示(一部)、ミニコンサート、パフォーマンス、子ども向け体験会など

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
913,000	862,986	976,144	823,786	400,646	437,371	
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・音楽堂利用者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
112,000	139,645	111,603	121,012	31,681	58,948	

事業費					
(単位：千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	7,000	7,500	8,000	7,900	7,900
一般	7,000	7,500	8,000	7,900	7,900
財源	7,000	7,500	8,000	7,900	7,900
事業費累計	7,000	14,500	22,500	30,400	30,400

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	今回から作品展覧会の会場をしいのき迎賓館に移し、開催期間を拡大することで、前年度比で5倍近くの多くの方に鑑賞していただいた。 音楽堂(金沢市)のステージ発表では、普段、同じ舞台で共演することがない様々な分野のトップレベルの児童・生徒が一堂に会する機会を創出することができ、加賀公演(白山市)や文化体験イベントの実施とあわせ、本県文化の裾野のさらなる拡大を図ることができた。 <来場者数(ステージ発表・作品展示)> 金沢 R3:約3,350人(R2:約700人) 加賀 R3:約600人(R2[能登公演]:約300人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	「いしかわジュニアアートステージ」は、出演する児童・生徒にとって、大舞台で経験を積み、さらなる高みを目指す場であると同時に、あとに続く子どもたちが次代の文化の担い手を志すきっかけとなる貴重な場でもあることから、今後も内容の充実を図る。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		
		根拠法令	いしかわ文化振興条例			
		計画等				

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 浅井 圭一郎		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1372 内線 3847

事業の背景・目的
 子どもたちが本県の文化に深く親しむことは、本県文化の振興を図っていく上での礎ともなる重要な施策であるため、兼六園周辺文化の森を中心に、県内の様々な文化施設において、小・中学生を対象とした多彩な文化体験メニューを提供し、本県の質の高い「本物の文化」の奥深い魅力や真髄を五感を通じて体感してもらう。

事業の概要
 (1) 体験内容
 美術館、歴史博物館の文化施設のほか、図書館や生涯学習センターにおいて、伝統芸能・工芸や音楽、美術など計200以上の体験メニューを提供

①伝統芸能
 ・能楽(能、仕舞、狂言)
 ・その他伝統芸能(三味線、箏、太鼓、日本舞踊)

②伝統工芸
 ・焼き物・器づくり(ろくろ回し、絵付け)
 ・塗り物(蒔絵、金箔)
 ・木工芸(組子細工、竹細工)

③音楽
 ・洋楽器演奏(弦楽器、打楽器)

④美術
 ・芸術(絵画、彫刻、壁画)

⑤その他
 ・歴史・文学(朗読会)
 ・生活文化(茶道、華道)
 ・文化財・博物館学(子ども一日学芸員、修復体験)
 ・郷土の文化(和菓子作り、朗読会)

(2)いしかわ子ども文化体験チャレンジスクールの実施
 上記の体験内容を対象メニューとしたスタンプラリーを実施し、参加実績に応じて称号と記念品を付与

これまでの見直し状況
 平成27年度に行った「いしかわ子ども伝統芸能チャレンジ推進事業」で実施した伝統芸能体験に加え、音楽や伝統工芸などの100を超える多彩な文化体験を提供することとした。

施策・課題の状況							
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D	
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大						
	指標					単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	913,000	862,986	976,144	823,786	400,646	437,371	
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	112,000	139,645	111,603	121,012	31,681	58,948	
事業費							
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業費	予算	12,000	12,000	11,500	11,500	10,000	
	決算	11,732	11,655	10,782	6,780	8,144	
一般	予算	6,000	6,000	5,750	5,750	5,000	
	決算	5,866	5,828	5,391	3,390	4,072	
事業費累計		24,823	36,478	47,260	54,040	62,184	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一部のメニューを中止や内容変更したものの、昨年より約2千人多い約8千人の子どもたちが参加したことで、伝統芸能をはじめとする幅広い分野に興味を持ち始めるきっかけになり、文化の裾野の拡大に寄与した。 <メニュー数> R3:132メニュー(R2:151メニュー) <延べ参加者数> R3:7,982人(R2:5,796人)					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	引き続き、子どもたちにより人気の高い文化体験メニューの充実を図ることで、各文化施設の入館者数の増加、ひいては、県民が文化に親しむ機会の充実を図る。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化財保存修復工房魅力発信事業費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 小菱 愛未		
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3838			

事業の背景・目的

これまで積み重ねてきた修復の実績や石川の高い修復技術を、県内・全国に向けて積極的に発信し、石川県独自の施設として更なる発展を目指す。

事業の概要

文化財保存修復工房、および隣接する県立美術館広坂別館(旧陸軍第九師団長官舎、H28国登録有形文化財)において、各種事業を実施。

- ① 体験イベント等の充実
 - ・修復実績のパネル展示
 - ・特別実演
修復技術者が作品の解説や修復内容を実演も交えて紹介
 - ・子ども修復体験
 - ・大学生向けワークショップ
 - ・「寒糊吹き」の実演・展示解説
- ② 修復工房セミナーの開催
外部講師(第一線で活躍する専門家)を招いてセミナーを実施。文化財の適切な管理・修復方法について、県内の文化財関係者に向けた普及啓発を行う。
- ③ 修復工房活動報告冊子の作成・配布
リニューアルオープンからの工房における具体の修復実績等をまとめた冊子を、引き続き博物館・美術館や寺社等、文化財関係者への配布する。また、昨年度の具体の修復実績等をまとめた冊子を新たに作成し、同様に配布する。

施策・課題の状況							
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D	
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大						
	指標	美術館入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	472,500	433,334	529,858	403,763	253,363	260,199	
事業費							
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成2年度	令和3年度	
事業費	予算	4,000	1,400	1,400	1,400	1,424	
	決算	4,000	1,372	1,115	1,054	1,276	
一般	予算	2,000	700	700	700	712	
	決算	2,000	706	557	527	638	
事業費累計		5,906	7,278	8,393	9,447	10,723	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、外部専門家のセミナーなどが中止となったものの、修復道具の展示や「寒糊吹き」の実演等のイベントを通じて本県の高い文化財修復技術を発信したところ、修復工房の入館者数は、前年度より約5千人多い2万1千人余りとなった。 <修復工房入館者数> R3:21,391人(R2:16,276人) <修復実績> R3:37件(R2:43件)					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	体験イベントやセミナーの開催、活動報告冊子の作成・配布を通して、引き続き情報発信に努め、更なる魅力発信や利用促進を図る。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例				成 職・氏名
						者 電話番号	

事業の背景・目的
国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 事業名 2021いしかわミュージックアカデミー (IMA:ISHIKAWA MUSIC ACADEMY)
 - 2 期 間 令和3年8月17日(火)～26日(木) 10日間
 - 3 会 場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センター ほか
 - 4 主 催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会 会長(石川県知事)谷本正憲

- 5 内 容
- (1) スクール部門
- ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象
ヴァイオリン50人、チェロ9人、ピアノ18人
 - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象
ヴァイオリン5人、ピアノ13人
 - ③ 受講生ソロ発表会(マスタークラス受講生)
- (2) コンサート部門
- ① IMAフェスティバルコンサート
:IMA出身の将来有望な若手音楽家とOEK等との共演によるコンサート(県立音楽堂)
 - ② IMAライジングスターコンサート
:IMA音楽賞受賞者及び世界的コンクール入賞者などによるコンサート (県立音楽堂)
 - ③ ミニコンサート
:受講生が県内各地を訪問して行うコンサート(県内各地の特別支援学校、福祉施設等)
- (3) フェロシップ制度
優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘する。
- (4) 県内若手音楽家育成事業
- ① 基礎クラス優秀者に対する特別レッスンの開催(IMA開催後に実施)
 - ② IMA講師による無料体験レッスンの開催

施策・課題の状況					
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり	評価	D		
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大				
	指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数		単位	人
	目標値	現状値			
	令和3年度	平成28年度	平成29年度	令和元年度	令和2年度
	150	1,537	1,381	1,881	-

(令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止。)

事業費						
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	15,640	16,140	20,140	20,140	20,140
	決算	15,640	16,140	20,140	6,670	10,000
一般	予算	15,640	16,140	20,140	20,140	20,140
	決算	15,640	16,140	20,140	6,670	10,000
事業費累計		479,215	495,355	515,495	522,165	532,165

評価		
	項目	評価
		左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	—	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、事業の有効性についての評価が困難 ※当初予定されていたレッスンやコンサートはいずれも中止
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継 続	音楽文化の普及向上を図るため、引き続き本事業を実施し、県民のオーケストラへの親しみや理解を深めるとともに、次世代を担う若手演奏家の育成に取り組む。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度 H14	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例	成 職・氏名 主任主事 松本 隼樹 者 電話番号 076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての石川県立音楽堂において(公財)石川県音楽文化振興事業団が行う魅力ある多彩な自主事業に対して助成を行うことにより、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
 - A 優れた演奏家の招聘
 - B 若手・地元芸術家の支援
 - C 音楽ファンの拡大
 - 2 事業内容
 - (1) コンサートホール(11事業)
 - ・パイプオルガンによるシリーズ公演
 - ・洋楽と邦楽のコラボレーション・コンサート
 - ・ランチタイム、アフターセブンコンサート(室内楽の公演) 他
 - (2) 邦楽ホール(6事業)
 - ・野村萬斎邦楽監督就任記念公演
 - ・名手・名匠 邦楽と舞踊の会
 - ・芸の鼓動(地元新進気鋭の演奏家、舞踊家の公演) 他
 - (3) 交流ホール(3事業)
 - ・音楽堂フェスタ(親子で楽しめる伝統芸能等の体験イベント)
 - ・おしゃべりクラシック
 - ・カルチャーナビ(洋楽監督によるクラシック音楽講座や芸能講座)

計 20事業
 - 3 総事業費

153,137千円	
うち県補助金	15,000千円

施策・課題の状況						
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり				評価	D
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大					
指標	音楽堂入場者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
258,000	321,184	255,959	260,592	50,282	114,649	

事業費						
(単位:千円)		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
	決算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
一般	予算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
	決算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
財源		15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
事業費累計		169,880	184,880	199,880	214,880	229,880

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由 B 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一部公演を中止したものの、県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、本県の音楽文化の振興に寄与した。 <事業数・参加者数> R3: 18事業 / 11,983人 (R2: 20事業 / 12,586人)

今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、かつ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。
--	---

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度 H2	事業終了予定年度
	根拠法令	いしかわ文化振興条例
	・計画等	

作成者	組織 文化振興課
	職・氏名 主任主事 松本 隼樹
	電話番号 076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
現代音楽の作曲や、県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

事業の概要
① 芸術文化創作事業
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして著名作曲家にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとなる現代音楽の作曲を委嘱し、新しい音楽の創造を図る。(委嘱作曲家:杉山 洋一)

② 特別文化事業の開催
バレエやオペラなど、クラシック音楽以外の音楽愛好家も対象とした音楽文化の普及事業を開催する。
・ベートーヴェン生誕250年記念 ベートーヴェン交響曲全曲演奏会
日時:令和3年7月～ 会場:県立音楽堂

③ オーケストラ実践講習会
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。

④ ジュニア・オーケストラ育成事業
小学校4年生から高校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。

⑤ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。

⑥ 新人登竜門コンサートの開催
石川県出身者または北陸三県在住者の中から優秀な新人を発掘し、オーケストラ・アンサンブル金沢の演奏会で、ソリストとして共演するコンサートを開催する。
・オーディション:管・弦・打楽器部門 審査員:川瀬賢太郎(OEK常任指揮者) 他
・演奏会:R3.5.16(ピアノ部門) 県立音楽堂

補助金額 10,000千円 (石川県・金沢市 同額補助)

これまでの見直し状況
※ H17年度から地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況							
施策	全ての県民が文化に親しむ環境づくり					評価 D	
課題	いしかわの優れた文化の裾野拡大						
	指標	音楽堂入場者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	258,000	321,184	255,959	260,592	50,282	114,649	

事業費						
	(単位:千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業費	予算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	決算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
一般	予算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	決算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
財源	事業費累計	355,100	365,100	375,100	385,100	395,100

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一部の公演が中止・内容変更したものの、各種演奏会等の開催により、オーケストラへの親しみと理解を深めるとともに、ジュニア・オーケストラ等の育成を通じて、若手演奏家の音楽資質の向上に寄与した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	音楽文化の普及向上を図るため、引き続き本事業を実施し、県民のオーケストラへの親しみや理解を深めるとともに、次世代を担う若手演奏家の育成に取り組む。